

<ちょこっとコラム③⑥>

(聖書時代の生活と文化 その③)

「ひつじ」 sheep

羊は古代からパレスティナでは家畜として飼われてきました。聖書では度々、人間が羊にたとえられます。羊は群れで生活し、羊飼いなしでは生きていくことができません。非常に弱く、臆病で、敵が襲ってきても戦うことのできない生き物です。また方向音痴の上に、目が悪くて遠くを見渡すことができないほか、一度ひっくり返ったら自分で立ち上がることもできないそうです。人間の本质が表されているようです。

同時に旧約の時代、羊は、神さまへの大切なささげものでした。人間の罪を償うために焼き尽くす生贄としてささげられたのでした。その贖いの業をイエス・キリストは「世の罪をのぞく神の小羊」として一身に引き受け十字架にかけられました。イエス様、ありがとうございます。